

~ようこそ~

セントメリースカウトへ



ボーイスカウト武蔵野第1団

〒180-0005 東京都武蔵野市御殿山1-7-8

カトリック吉祥寺教会内

教会会館 0422-44-0181
スカウトホーム 0422-44-1737

ちかいとやくそく

スカウトのちかい

入隊に際して、ボーイスカウトは、次のちかいをたてる。

私は、名誉にかけて、次の3条の実行をちかいます。

1. 神(仏)と国とに誠を尽くしおきてを守ります。
1. いつも、他の人々をたすけます。
1. からだを強くし、心をすこやかに、徳を養います。

カブスカウトのやくそく

入隊に際して、カブスカウトは、次のやくそくをする。

ぼく(わたくし)はまじめにしっかりやります
カブ隊のさだめを守ります

ビーバースカウトのやくそく

入隊に際して、ビーバースカウトは、次のやくそくをする。
ぼく(わたくし)はみんなとなかよくします
ビ-パー隊のきまりをまもります

ベンチャー・ローパー

入隊、または上進に際して、ベンチャースカウトまたはローパー
スカウトは、スカウトのちかいをたてるか、これを再認する。

指導者

初めて指導者として加盟登録する者は、スカウトのちかいを
たてるか、これを再認する。

他の人々

本運動に関与する他の人々も、スカウトのちかいをたてること
が望ましい。

おきてとさだめときまり

スカウトのおきて

1. スカウトは誠実である
スカウトは、信頼される人になります。
真心をこめて、自分のつとめを果たし、名誉を保つ努力をします。
2. スカウトは友情にあつい
スカウトは、きょうだいとして仲よく助け合います。
すべての人を友とし、相手の立場や、考え方を尊重し、思いやりのある人になります。
3. スカウトは礼儀正しい
スカウトは、規律正しい生活をし、目上の人を敬います。
言葉づかいや服装に気をつけ、行いを正しくします。
4. スカウトは親切である
スカウトは、すべての人の力になります。
幼いもの、年寄り、体の不自由な人をいたわり、動植物にもやさしくします。
5. スカウトは快活である
スカウトは、明るく、朗らかに、いつも笑顔でいます。
不平不満を言わず、元気よく、進んでものごとを行います。
6. スカウトは質素である
スカウトは、物や時間を大切にします。
むだをはぶき、ぜいたくをせず、役立つものは活用します。
7. スカウトは勇敢である
スカウトは、勇気をもって、正しく行動します。
どんな困難なことがあってもくじけずに、新しい道をきり開きます。
8. スカウトは感謝の心をもつ
スカウトは、信仰をあつくし、自然と社会の恵みに感謝します。
お礼の心で、自然をいつくしみ、社会に奉仕します。

カブ隊のさだめ

1. カブスカウトは すなおであります
2. カブスカウトは 自分のことを自分でします
3. カブスカウトは たがいに助けあいます
4. カブスカウトは おさないものをいたわります
5. カブスカウトは すずんでよいことをします

ビーバースカウトのきまり

1. ビーバースカウトは げんきにあそびます
2. ビーバースカウトは ものをたいせつにします
3. ビーバースカウトは よいことをします

モットーとスローガン

モットー	カウトのモットー	そなえよつねに(備えよ常に)
	カブスカウトのモットー	いつも元気
	ビーバースカウトのモットー	なかよし
スローガン	日日の善行	

ようこそ

セントメリースカウトへ

カトリック吉祥寺教会
セントメリースカウト育成会
ボーイスカウト武蔵野第1団

皆さんの入団をスカウト・リーダー・団委員・カトリック吉祥寺教会一同、心から歓迎致します。
私たちのセントメリースカウトは、ボーイスカウト日本連盟に加盟登録し、60余年を迎えています。
すでに2300～2500名の人たちが、スカウトやリーダーとして青少年時代をセントメリースカウトで活躍した人達が社会の中で活躍しています。現在わが団の中で、現役のスカウトおよびリーダー・団委員として活躍している人は、おおよそ170～180名おり、同じセントメリースカウトの組織の中にある姉妹団(ガールスカウト東京18団のスカウトとリーダーは140～150名います。またセントメリースカウトのOB・OGで組織しているセントメリースカウトクラブ(友の会)の会員は、おおよそ700～800名おります。

戦後(1945年秋)の社会状況の中で、多くの宣教師たちは、いかにして人びとを幸せにもたすか、寝食を忘れて取り組んでおられました。そのような時に、カトリックの神言修道会の宣教師カール・ライツ神父様が、武蔵野の地に青少年の幸せと健全な成長を願って、アルベルト修道院(カトリック吉祥寺教会の前身)でのミサに来ていた少年とその近くに住んでいた少年の家を訪問したりして、少年時代に体験したスカウト活動を1946年の春に始めました。

教会の使命はさておき、カトリック吉祥寺教会は、スカウト活動の使命について、その時代が求めている青少年の健全育成と人としての真の幸せの追求に寄与していかなければならないという問題意識をもって、これらのスカウト活動を支援していこうと思っております。

私たちのスカウト活動は、カール・ライツ神父様が故郷の教会名である聖母マリアに捧げ「セントメリースカウト(St. Mary's Scouts)」と名づけ、現在に至っております。ボーイスカウトがしているネッカチーフの色は、聖母マリアの衣の色のブルー色を採用しています。

私たちのスカウト精神は、ベーデン・パウエルが言われたように、神が期待している高い理想をめざし、健康・知能・才能をもって社会に奉仕し、愛と正義に充た社会を築きあげる人間となるように、青少年を育成することにあります。これは、キリストが求めた人間の姿であり、カール・ライツ神父様も、この目的のためにスカウト運動を推進し、早くから宗教教育の重要性を表明され、自ら実行され、指導にあたっておられました。

そして、現在の主任司祭・チャプレンをはじめ、指導者たちによってスカウトたちの育成は、続けられており、わが団の歴史は作られています。

1989年から、ライツ神父様の故郷のボーイスカウト・ガールスカウトとの交流を行っております。
他の国のスカウトや家庭との交流は、直接・間接に渡独するスカウトだけでなく、全体のスカウトにも国際化社会を理解するのに、よい機会になっています。

保護者の皆さんも、セントメリースカウト育成会のメンバーとして、青少年の育成のために、ご協力をお願い致します。

ビーバースカウト カブスカウト
ボーイスカウトの仲間になって

元気よく 一緒に活動しよう

きみが僕たちのボーイスカウトの仲間になったことを心から歓迎します。

きょうからいっしょにスカウトの仲間として、スカウトのユニホームをきて、ネッカチーフをつけて元気よく活動をしていこう。

スカウトの仲間は、東京の中に、日本の中に、そして、世界のいろいろな国や地域にもたくさんいます。

「ボーイスカウト」の名前は、世界中の人びとが知っています。「野外活動を通じて、元気でたくましい少年・少女になる」というのが、ボーイスカウト運動の大きな目的です。

「ボーイスカウトの仲間になったら、どんなことをするのかな！」ときみもおとうさんやおかあさんも思ったことでしょう。

スカウトホームに来てみて、また町の中や電車の中で、スカウトの服(ユニフォーム)をきをつけて見るといろいろなユニホームを着ているスカウトがいることにきがついたことでしょう。

そして、きみより少し年上のスカウトや小学校高学年のスカウト、中学生や高校生のスカウトや大学生のスカウトからお兄さん・お姉さんのリーダーやおとうさんやおかあさんよりも年上の人もリーダーの中にたくさんいるので驚いた人もいたのではないかと思います。

その人たちも小学生や中学生だった頃、ほとんどの人はスカウトとして一緒に活動していました。

やればやるほど楽しくなるのが、ビーバースカウトやカブスカウト、ボーイスカウトの活動です。ミーティングをやすまないで、元気に一緒にさまざまなプログラムにチャレンジしていこう！ ビーバースカウト、カブスカウト、ボーイスカウト、ベンチャースカウト……それぞれの年齢にあわせて、たくさんの種類のプログラムが用意されているよ。

楽しいプログラムに参加しているうちに、きみの趣味もさらに広がっていくよ。そして、知らず知らずのうちにいろいろなやり方(技能)も身につくよ……

いろいろなカッコいい、たくさんのバッジがユニホームにつけられる。

僕たちと一緒に楽しい、スカウトの活動をやっていこう！

ビーバースカウト (小学1年生～2年生)

カブスカウト (小学3年生～5年生)

ボーイスカウト (小学6年生～中学生)

ベンチャースカウト(高校生)

ローバースカウト (大学生年代)



ボーイスカウト武蔵野1団の指針

[スカウト教育の基本方針]

育成団体であるカトリック吉祥寺教会の「セントメリー ボーイスカウト」としてふさわしいスカウトになることをスカウト教育基本方針とする。日本カトリックスカウト協議会の定める「カトリック教会所属団のスカウト団としての『自己点検評価基準』」を指針とする。

ボーイスカウト日本連盟の「教育規定」に則った活動を行う。

カトリック教会所属団のスカウト団としての『自己点検評価基準』

1. 団の育成団体がカトリック教会であり、主任司祭や教会委員会との連携が図られている。
2. 団として日本カトリックスカウト協議会に所属している。
3. カトリックの精神に基づく指導・団運営が団規約・入団案内等に明記され、入団説明会、育成会、総会等でも説明されている。
4. 団委員長、団委員、並びに隊指導者が、カトリックの精神を尊重し、他の隊指導者やスカウトに対し、その精神に基づき指導、助言ができる人である。また、日本カトリックスカウト協議会や団のカトリック指導者研修に参加している。
5. 所属スカウトが、カトリック精神を尊重し、その精神に基づく指導を受け入れ、自らも積極的に取り組んでいる。
6. 所属スカウトの保護者が、カトリック精神を尊重し、その精神に基づく指導を承諾し協力している。
7. 団、隊の活動の全領域で、カトリック精神に基づく指導が行われている。すなわち、スカウトの年齢に応じてミサ等の教会活動への参加、活動時の祈りの実践、キリスト教章等カトリック精神の習得が着実に行われるとともに、神、他者、自分へのつとめを果たすように、また大自然の中で神を知るように、活動プログラムが整えられている。
8. カトリック信者のスカウトへのミサへの参加、初聖体、堅信等の信仰教育への参加を極力優先して団、隊活動が行われている。

(日本カトリックスカウト協議会)

「ボーイスカウト日本連盟教育規定より 1 - 3, 1 - 4」抜粋

1. 教育の目的 1 - 3

青少年がその自発活動により、自らの健康を築き、社会に奉仕できる能力と人生に役立つ技能を体得し、かつ、誠実、勇気、自信及び国際愛と人道主義を把握し、実践できるように教育することをもって目的とする。

2. 基本方針 1 - 4

ボーイスカウト運動は「ちかい」と「おきて」の実践を基盤とし、ベーデン・パウエルが提唱する班制教育と各種の進歩制度と野外活動を、幼年期より青年期にわたる各年齢層に適応するようにビーバースカウト、カブスカウト、ボーイスカウト、ベンチャースカウト及びローバースカウトに区分し成人指導者の協力によってそれぞれに即し、かつ、一貫したプログラムに基づいて教育することを基本方針とする。

わたしが、ボーイスカウトをつくった

(ペーデン・パウエル)



ボーイスカウト運動の創業者
ペーデン・パウエル

1907年 20人の少年とボーイスカウトの
実験キャンプをする。

1912年 訪日

1941年 ケニアで永眠

「こんにちは。私がボーイスカウト運動の創始者、ペーデン・パウエルです。私がどのような考えをもとに、このボーイスカウトをつくったか、簡単にお話しします。

時代は今から100年以上も昔にさかのぼります。もともと私はイギリスの軍人だったのですが、軍隊生活を終えて久しぶりに国に帰ってみると、そりゃもう驚きました。イギリスの若者たちが、なんととも軟弱というか、だらしないというか...

みんな覇気がない。私の少年時代といえば、野や山を駆け回った思い出がたくさんありました。都会生活の中では、こどもをそんな環境では育てることもできないのか..."こんなことではこの国はダメになってしまう" 私は、これは何とかせねばと、思案しました。

当時のイギリスと現在の日本は、どこか似ているところがあります。受験だ、塾だ、偏差値がどうした...と、勉強、勉強で、知識ばかりをつめこまれた「点取り虫」を量産していました。

学校の勉強も大切ですが、真の教育というものは、そんなものではありません。思いきりからだを動かして遊ばない、身の回りの自然や社会のしくみに興味をもてない、時に友人とぶっかり、喧嘩をするようなこともない...。そんな少年時代を過ごした人間が、どんなおとなになるのか考えると、ぞっとするのは、わたしだけではないと思っていました。

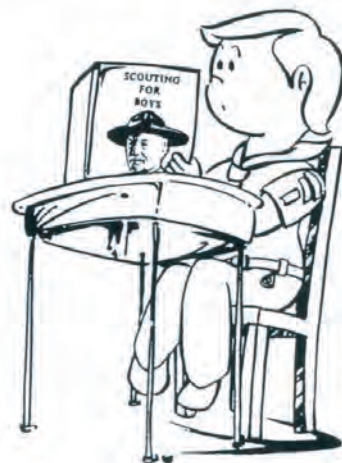
話を100年前に戻します。そこで私は、自らの軍隊生活を活かし、楽しみながら訓練できる少年本来の夢や冒険心好奇心を育むようなプログラムを考えました。そして、その私のプランが正しいことを証明するために、20人の少年たちとともに、ブラウンシー島という無人島で実験キャンプを行いました。

結果は大成功。このキャンプでの体験をもとに書いた本が『スカウティング・フォア・ボーイズ』です。

テレビもインターネットもない時代でしたが、この本は世界中で大反響を呼びました。こうしてボーイスカウト運動は誕生しました。この本は、日本でも翻訳されて出版されています。是非読んでください！

日本でもようやく野外活動や奉仕活動を通じた"心の教育"をはじめようということになったらしいですね。結構なことと私も喜んでます。

私がつくったボーイスカウト運動が、一世紀以上近い年月を経ても世界中の少年少女に愛され、今なお発展し続けていることを喜ばしく思っています。この運動にお子さんを参加させられたお父さん・お母さんも健全な活動を続けているボーイスカウトに誇りをもっていただきたいと願っております。」



3

セントメリースカウト創立者からのメッセージ

(カール・ライツ神父)

「私はドイツで、少年時代にカトリック・ボーイスカウトとして、スカウトの道に励んでいました。1930年にカトリック神父になり、神言会司祭として日本にキリストのお教えを伝えるために派遣されてきました。新潟の高田や佐渡で教会の仕事をしていましたが、佐渡に渡ってから、すぐドイツでカトリック・ボーイスカウトの隊員として活躍していた体験を活かして、スカウト活動を始めました。



ベーデン・パウエルがはじめていたボーイスカウト運動が少年たちを育てるために一番よいことだと私も自分の体験からわかっていたからです。

佐渡は周囲が海であり、漁師の子弟や地元の人びとの希望もありましたので、海洋少年団も作りました。

第2次世界大戦の時に、武蔵野市東町の聖アルベルト修道院に移り、国学院大学で"神祇史・民族学"を学んでいました。戦後も大学に通って学究生活をしていましたが、戦火に傷つけられた少年たちが多く、おとなは、わが子の教育どころか、途方にくれており、心の和らぎを求めて来る多くの少年・少女たちを察し、父母の願いもありましたので、はじめにボ、ーイスカウト隊を作り、その後すぐにガールスカウト隊を作りました。

スカウト活動をはじめながら、ドイツやイギリス、フランス、アメリカなどからスカウトや子供たちの活動に関するの沢山の本を取り寄せて、指導者たちとスカウティングの原理や技能、運営に付いて研究し始めました。その頃は、スカウト活動に関するの本が日本ではほとんど刊行されていませんでしたので、主にドイツやイギリスの本を翻訳して使っていました。

その頃のセントメリースカウトの指導者たちは、高校や大学で学んだ語学を活用して、私の指導を受けながら、翻訳しては謄写版印刷をして、スカウトたちの指導に使っていました。

私は少年少女たちに、ベーデン・パウエルが提唱しましたスカウトムーブメント(運動)によって、少年少女たちの心を正しく成長させ、そのプロセスの中で、神を正しく認識させ、カトリックスカウトの精神を身につけた青年たちによって、日本に明るい平和な神の国を作り上げていくことを念願して、スカウトの育成にあたりました。

日本の戦後のボーイスカウト再建のために、私の友人でボーイスカウト日本連盟の総長になられた三島通陽先生に協力しました。

スカウトのミーティングの時に、神を敬い、動物、植物、自然現象などすべての物を神の被造物として大切に、キリストの福音と宗教のために、必要な場合には命を捨てることを覚悟している騎士の精神を、スカウトの模範として話していました。」

4.

セントメリースカウトとドイツ・スカウト

団会議で「セントメリースカウト創立40周年」の記念に何をしようかと話しあっていたときに、ボーイスカウト東京連盟の会議に地区委員長の代理として出席した当時の武蔵野第1団団委員長の丸山康則さんがオーストラリアでの世界ジャンボリーに参加してきた人の報告を聞いて、「いろいろな国のテントサイトをまわっていた時、ある国のキャンプサイトで"このテントは持って帰る"というスカウトの話がありました。日本のスカウトは、自分たちのキャンプに使うので、持って帰るといっていました」が、次の言葉が衝撃的だったと団委員長は、リーダーたちに話しました。"持って帰って、テントのない国のスカウトへ贈る" それは、世界ジャンボリーに参加していた当時の西ドイツのスカウトのキャンプサイトでの話でした。

「ドイツは民間レベルで、他の国を援助する努力の大変盛んな国です。日本は、国のレベルでは盛んですが、まだ学ぶことがたくさんある国だなと感じた」と話しておりました。

そのようなことから、ライツ神父様への感謝をこめて、リーダー会議で、ライツ神父様の育ったフェルバートの家の近くの教会のスカウトを招待しようということになりました。

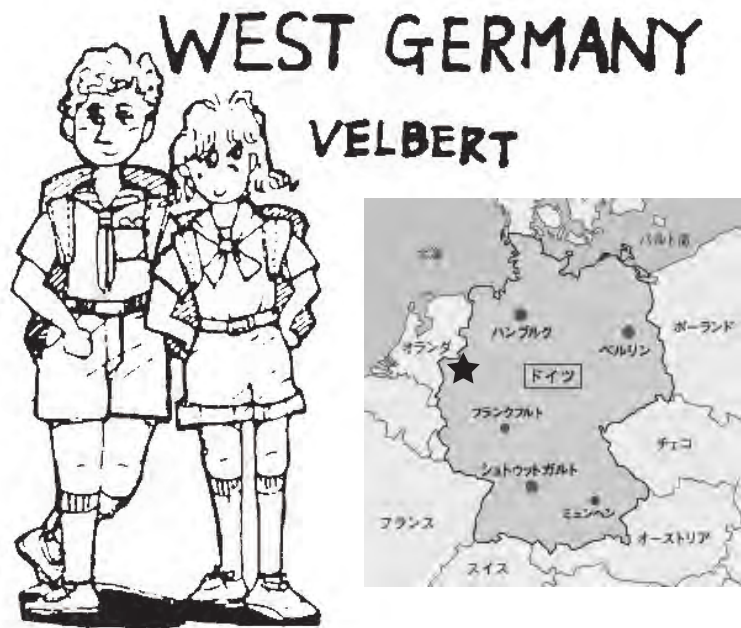
1989年にドイツのボーイスカウト、ガールスカウト20名がはるばる19時間かかってやってきました。

スカウトの家庭にホームステイする他、富士山麓の御殿場で、セントメリーのボーイスカウトとガールスカウトとの合同記念キャンプを行い、約400名のスカウトが、ドイツのスカウトと一緒に、富士山登頂をしました。ドイツのスカウトは、キャンプを挟んで、3週間滞在し、ディズニーランドや鎌倉・京都・奈良等に、スカウトたちと一緒に観光したりまたスカウトホームの庭で、スカウト全員で盆踊りやパーティー等したりして多くのスカウトやリーダーたちと交流しました。

翌年に、ドイツのスカウトに招ねかれて、セントメリースカウトのボーイスカウト、ガールスカウト30名が渡独しましたが、渡独したスカウトだけではなく、全体のスカウトにも国際社会を理解するのによい機会になっています。その後も、5年毎にフェルバートのスカウトを招いており、セントメリーのスカウトも渡独しています。またその間に、大学生のスカウトやリーダーたちが、個人的に行ったり来りして親交を深めています。

日本ジャンボリーには、世界各国・地域からスカウトが参加しており、また世界ジャンボリーには、日本からも多くのスカウトが参加しています。ボーイスカウトの派遣団に属して、また単独で渡航して海外のスカウトと交流を深めているスカウトやリーダーも多くなってきています。

ボーイスカウトの創立者ベーデン・パウエルは「友情はブーメランのようなもの、あなたが友情を次々と多くの人びとに与えれば、それは必ずあなたの所へ帰ってくる」と。





ボーイスカウトの目的と活動

1. ボーイスカウトの目的

ベーデン・パウエルは、ボーイスカウトに最後のメッセージ(遺言)を書きました。

「……私は、ほんとうに幸福な一生を送った。あなたがた一人ひとりが、私と同じように幸福な人生を送って欲しいと思う。……神は、あなたがたが楽しむためになんと美しい、しかも素晴らしいものにみちみちた世界を造ってくださったのだらう……自分が得たものに満足し、それを最善にせよ……」

ベーデン・パウエルは、私たち指導者に、スカウトを指導するときに、手段にだけ目を奪われてしまうのではなく、より高い目的を持つように務めるべきであると教えています。カール・ライツ神父様は、このベーデン・パウエルの教えに基づいて、技能的なものを精神的なものより重んじるようなプログラムを計画して、実行してはならないと常に語っておりました。スカウトの活動における野外活動・キャンプ・ハイキング・ジャンボリーでの仲間づくりなどは、すべて手段であって、究極の目的ではありません。スカウトムーブメント(運動)における究極の目的は、よりよい市民に人間として育てることであり、スカウトたちが目的を持った人間になることを教えています。この目的とは、次の世代の人びとが、たとえどんな世界に住もうと健全な精神を持ち、奉仕のより高い実践を行うことです。神と隣人への愛の務めを積極的に行動にあらわすことです。私たちは、それぞれの年齢に応じた少年たちが、スカウトのプログラムに参加することによって、このことが身につけられるように指導に取り組んでいます。

ボーイスカウトやガールスカウトがユニホームを着用するのは、それぞれの社会的立場の違いを隠し、平等に見せるためです。しかも、もっと大切なことは、国家・民族・宗教の違いを越えて、みんながお互いに兄弟姉妹であると感じさせることです。ボーイスカウトになっているすべてのスカウトとリーダーは、「ちかい」をたてています。ビーバースカウトやカブスカウトは同じ精神に基づいていますが、それぞれの年齢の子どもたちに理解しやすいように言葉の表現をやさしくしてあります。

2. ボーイスカウトの活動

「ボーイスカウトは、健やかなこどもを育成する世界運動です」

今や世界で一番大きな青少年活動になりましたが、このボーイスカウト運動の始めは、小さなキャンプからでした。

ボーイスカウトは、1907年に20名の少年を集めて、イギリスのブラウンシー島で行われたキャンプからスタートしました。都会育ちの少年たちにとって、このキャンプは夢と冒険にみちた初めての体験でした。かねてから少年たちの教育問題に大きな関心を持ち、このキャンプを主催したベーデン・パウエル卿は、この体験をもとに翌年『スカウティング・フォア・ボーイズ』という本を著し、少年たちの旺盛な冒険心や好奇心をキャンプ生活や自然観察、グループでのゲームなどの中で発散させ、「遊び」を通して少年たちに自立心や協調性、リーダーシップを身に付けさせようと説いていたのです。これがボーイスカウト運動の始まりです。「スカウト(SCOUT)」とは「斥候」のことで、ボーイスカウトとは「自ら率先して・幸福な人生を切り開き、社会の発展の先頭に立つとする少年」という意味を持っています。

「世界161の国と地域で、3000万人が活動しています」

現在、世界では161の国と地域で3000万人がボーイスカウト運動に参加しており、また2億5千万以上の人々が人生の一時期をボーイスカウトとして過ごしています。世界の大部分の地域で、多くのスカウトやOBのスカウトを生んできたこのスカウト運動は、さらにその輪を広げつつあります。2010年11月現在、スカウト活動が行われていないのは、アンドラ、中国、キューバー、北朝鮮、ラオス、ミャンマーの6の国のみ。スカウトの世界組織である「世界スカウト機構(WOSM)」には、161の国と地域のスカウト組織が正式加盟しています。正加盟の合計は、161か国 3000万人です。

「学校以外の場所が、ボーイスカウトの教室です」

現代の子どもたちは、受験勉強や塾通い、稽古ごとに追われ、おとな並に忙しさにもまれ、せわしない生活をしているといわれます。また、近所のこどもたちや学友と誘いあって一緒に遊びまわることも少なくなりました。これでは、たとえ学力や知力が向上しても、人間にとって大切なバランスのとれた人格を形成するためには問題があるといわざるを得ません。ボーイスカウトの活動では、年齢の近い仲間たちと共に、大自然の中で思いっきり楽しく遊びながら、多くのことを自らの心とからだで、体験学習をします。その過程で、健康、協調性やコミュニケーションの能力、リーダーシップといった、大きく見れば「共生の能力」の基礎を、ごく自然に身につけることができます。

「名前も活動も、地球サイズ」

ボーイスカウト活動の目的や教育システムは、世界共通です。また、当然のことながら名称も世界共通で、総称して「ボーイスカウト」または単に「スカウト」と呼んでいます。場合によっては、ビーバースカウト(ビーバー)、カブスカウト(カブ)、ボーイスカウト(スカウト)、ベンチャースカウト(ベンチャー)、ローバースカウト(ローバー)と個々によんでいます。私たちのセントメリースカウトを直接指導していたライツ神父様は、他の団のリーダーやスカウトたち、また大人達がボーイスカウトのことを略してスカウトといわずに「ボーイ」とよんでいることを聞いて、ボーイというのはレストランやホテルのポーターのことで、ボーイスカウトとは言葉の本質が明らかに異なるのであるから、ボーイスカウトのことを略して「ボーイ」とよばずに略していいたいときには、必ず「スカウト」といいなさいといつも話しておりました。残念ながらある時からボーイスカウト日本連盟の教育規定集の中に、ボーイスカウトのことを略して「ボーイ」、ボーイスカウト隊長を「ボーイ隊長」と書かれるようになってしまいました。小さい事かも知れませんがライツ神父様は日常生活の中でも言葉の使い方について、スカウトを指導するときには、正しい言葉を使うように話していました。1920年にボーイスカウトの国際事務局がロンドンに開設され、以来、人種、宗教、言語など、人びとのあらゆる違いを越えて、世界中の青少年の友愛を深めることを目指し、その活動は積極的に展開されています。

「山野で、街角で、今日もボーイスカウトの声がはずんでいます」

楽しさ、厳しさ、思い出は、決して減らない財産です。ボーイスカウトの活動のベースは、休日を利用しての集会です。スカウトホームや教会、公園などに集まって、その日のテーマのもと、さまざまな活動を行ないます。草花や木々を観察したり、気象について学んだり、ある時は町の探検家に、またある時はレスキュー隊にもなり、子どもたちは楽しみながら、学校では得られない知識と技能を体得してゆきます。周囲の人びとに対するいたわりの気持ち、感謝、チームワーク、敬う心などもこうした日常活動の中で育まれるよう指導も工夫を凝らしています。これらすべての体験は、一人ひとりの胸に刻まれ、彼等を精神的に成長させます。

「ボーイスカウトは、創設当時から、自然を愛する運動です」

ボーイスカウトでは、その起源からもわかるように野外活動を重視し、自立心を高めることをその大きな目標としています。活発に行なわれるキャンプなどの野外活動で子どもたちは、自然と親しむ技能と心を学びますが、この姿勢は、地球環境の保全が叫ばれている今日、新たな角度から再評価されています。また、この野外活動の集大成ともいえるジャンボリーは、日本と世界ともに4年に一度開催され、スカウトたちは日頃の成果をお互いに披露し、和を拡げ、友情を深めます。日本ジャンボリーは、すでに15回行われており、1週間にわたって、毎回世界20～25か国と地域から、約30,000～35,000人(海外からは450～700人)の参加者を得て、大きな成果を納めています。

「奉仕の心と人間愛が基本です」

ボーイスカウトの日常活動の大きな柱に、さまざまなボランティア活動があります。これはボーイスカウトの活動が自然と社会、そして、それらを包括した人生そのものであることを示しています。

そのためスカウトは、全国規模の社会奉仕活動である赤い羽募金やユニセフ募金を率先して推進することはもちろん、公園などの清掃活動をはじめとする地域社会への貢献も積極的に行い、人の役に立つことの大切さを学んでいます。

「家庭にいても、学校にいても、ボーイスカウトの誇りを大切にします」

ボーイスカウトは、子どもの個性を尊重する運動ですが、同時にスカウトとしての活動中に規律を大切にします。そのためにスカウトたちは入団するにあたって、年齢部門別に「ちかい」や「やくそく」をたて、「おきて」を守ることを神とみんなの前で約束します。しかし、この内容は「体を強くし、心をすこやかに、徳をやしないます」といった人間としてごご当たり前の信条に他ならないものばかりです。ボーイスカウト運動は、このような信条を子どもたちにはっきりと認識させることにより、家庭でも、学校でも、自らの責任と目的を自覚して、より有意義な日常生活を送るように促しています。

「綿密なプログラムで、一人ひとりの個性を尊重します」

ボーイスカウトでは、強制的な訓練は一切行なっていません。そのプログラムは、スカウト個人個人の長所を生かすよう綿密に作成されており、遊びでも奉仕でも、自分の意思で、自発性と自立心を持って、スムーズにとけ込めるように工夫がなされています。「班制度(組制度)」と「進歩制度」は、その一例です。小さなグループ(班)での活動を基本に、リーダーシップ、協調性、責任感を養うのが班制度です。また進歩制度は、いろいろな課題を達成するにしたがって、上級のスカウトに進んでゆく進級章と、興味に従って選択できる技能章から成り立っています。

3. スカウトとしてのちかいと入隊

スカウト活動に参加し、ちかいとおきてを守ることを表明し、スカウト活動の基本的なことを理解し、ちかいとおきてに基づいた活動をするを隊長に認められたときに、スカウトとして隊加入の条件をクリアしたことを仲間のスカウトの前で、「ちかい」をたてます。ビーバースカウトやカブスカウトは「ちかい」の中にあるスカウトの精神は同じですが、ちかいやおきての言葉は、それぞれの年齢の子どもたちにわかりやすい表現になっています。(ビーバースカウトのきまり、カブ隊のさだめ)

「ちかい」をたてるスカウトのために入団式を行ない、その日からスカウトのユニフォームの着用が認められ、世界のスカウトの仲間になります。1907年にボーイスカウト運動を始めてからの総スカウト数は、2億5000万人以上といわれており、この他にガールスカウトがあります。スカウトの経験がなくスカウト活動の指導者になる人は、スカウトと同様に「ちかい」をたてます。スカウト経験者で指導者として任命された人は、すでにスカウトの時に「ちかい」をたてているので、新たにちかいはたてませんが、仲間の前でスカウトの指導者としてスタートするにあたって、神の前で指導者になることを約束します。また、それぞれの部門から上進してきたスカウトも同じですが、特にカブスカウトがボーイスカウト隊に上進したスカウトは、ボーイスカウトの「ちかい」「おきて」の意味も理解できるように学んで、ちかいをたてスカウトとしての自覚を持って、このスカウト活動に体験していきます。

スカウトとして「ちかい」をたてた日は、スカウト運動に参加し、第一歩を踏み出した記念すべき日なので、スカウトとしての誕生日です。スカウトのちかいをたてた年月日と場所は、大切なので記録しておいてください。

私たちの団や所属している地区(ボーイスカウト東京連盟南武蔵地区)以外のスカウトの行事に参加する時、また大きな大会や海外派遣に参加するときおよび指導者になっているいろいろな研修コースに参加するときに、記入の必要がある場合があります。



教皇ベネディクト16世

「ICCS (INTERNATIONAL CATHOLIC CONFERENCE OF SCOUTING [国際カトリックスカウト協議会]) 創立50周年に際してその当初から、カトリックスカウト運動に参加し、日常生活を通じて助けとなる精神的・人間的訓練を受けた人びとと、神への感謝を共にすることができることは、私の大きな喜びです。国際的なスカウト運動の友愛精神は、異なる文化、言語、信仰の人びとの間をつなげるものであり、これらの人びととの対話の可能性をもたらすのです。この精神において、私はスカウトリーダーや関係者たちの仕事へ賞賛の拍手をおくります。この人たちこそ、都市内部や、工業化した郊外から方向を失って出てきた若者達へ、スカウトの理想と、教育体制を伝えるため、苦勞を惜しまない人びとです。これは真に友愛の仕事であり、一般の人びとに平和と協力の精神をもたらすと同時に、キリストおよびキリスト教会から遠い距離にある人びとへの福音を伝えることに大いに貢献しているのです。」(前教皇ヨハネ・パウロ2世のメッセージの一部)

1981年2月にヨハネ・パウロ2世教皇は、平和巡礼者として福音伝道の旅を行いました。全国のカトリックスカウト団は、それぞれの地域(東京・広島・長崎等)で奉仕したので、当時の教皇大使

マリオ・ピオ・ガスパリノ大司教が教皇に代わって、JCCS (Japan Catholic conference of Scouting 日本カトリックスカウト協議会) にメッセージをくださいました。現教皇ベネディクト16世は、2007年8月1日ベーデン・パウエルがブラウンシー島で行った最初のスカウトキャンプの百周年記念日に「平和を実現するスカウトに」とメッセージを寄せています。「...一世紀にわたり、スカウト運動に携わったすべての人びとに遊び(ゲーム)・活動・冒険・大自然との触れ合い、集団活動・人びとへの奉仕などを通して、全人格的養成が提供されてきました。さらに福音によって養われたスカウト運動は、真の人間の成長の場だけではなく、堅実なキリスト教的思考と真のモラルと霊的成熟の場でもあります。また同様に、スカウト運動は理性への正しい道でもあります。.....」

教皇ピオ12世、教皇パウロ6世もスカウト活動を評価し、ボーイスカウト世界委員会等へメッセージを寄せています。これらのスカウト運動に対しての前記教皇および教皇大使のスカウトへのメッセージの全文は、『輝くスカウティング Glorious Scouting』(竹田誠二著文芸社P153～178参照)に掲載してあります。

カトリックスカウトの日

国際児童年(1976年)のとしに、日本カトリックスカウト協議会は、全国総会を通してカトリック司牧協議会に申請し、9月第3日曜日が「カトリックスカウトの日」として制定されました。JCCSのボーイスカウト、ガールスカウト運動は、カトリック教会を基盤に信徒・未受洗者を問わず活躍している少年・少女の養成と教会における青少年の宣教司牧の具体的な証しの位置づけになっています。「カトリックスカウトの日」のBS・GSとの合同のミサは、スカウト運動の原点を再確認する意味もあります。

担当司教から毎年スカウトとリーダーのために司教メッセージが寄せられています。



Extension Scouting (障がい児スカウトとの共存活動)

注:私どもでは長年にわたり多くの障がい児を受け入れ一緒に活動をしてまいりましたが、残念なことに近年リーダーの数が不足がちになり受け入れがだんだんと難しくなってまいりました。2011年度以降は個別に相談の上、入団をお断りせざるを得ないケースも出てまいりますのでご理解をいただけますようよろしくお願いいたします。

1. 障がいをもった少年との共存

スカウティングは、すべての少年を対象にした運動です。その中には心身に何らかの障がいを持っているために、通常の活動への参加が困難な少年たちもいます。こうした少年たちにもスカウト運動に参加できるように活動の場を提供しています。ともにスカウト運動に参加するのが「障がい児スカウティング」ですが、障がいをもった彼らの将来のために、自立できるようにスカウトと指導者たちは支援し、ともに活動しています。

国際的にはこの障がい児スカウティングの活動を

Extension Scouting (Scouting with the Handi-capped)と呼んでいます。



2. 触れ合いは、心を育てる。

障がいをもった少年が可能な限り、班(組)のメンバーとして参加することができればという考えを私たちの団・隊指導者は持っており、健常の一般スカウトたちにもお互いに触れ合うことで理解するように教えています。また一般のスカウトたちには、障害に対する理解と介助の方法を学ぶ手助けにもなっています。この教の根底は、スカウトの精神であり、お互いに兄弟姉妹として互いに助け合うことの実践の場にもつながっています。またカトリックスカウト団の一員としてキリストの精神を実践することにもなり、聖書の教えに従うことにもなります。

3. 入団申し込みの前に次の事項を書面で提出してください。(用紙の指定はありません)

(1)障がいの種類 / 障がいの程度・症状 / 診断名。

特記すべき検査所見症状(MRI・脳波等)

(2)掛かり付けの病院・主治医の氏名、病院の住所・電話番号・FAX番号等。

(3)日常生活で特に気をつけていること。主治医からの指導内容・服薬中の薬剤名等。

(4)集団生活・集団活動を行う上で気をつけていること。

(5)キャンプ等宿泊を伴う活動での対応等。

4. プログラムや進歩課程

私たちの団や隊では、はじめから障がい児スカウトのための特別なプログラムを作っておりません。

本人がどうしてもそのプログラムに体力的または能力的に参加できない時や進歩課程をこなすことが不可能と隊指導者が判断した場合には、隊長は他の指導者と相談して、スカウトが成し遂げて満足できるように、別の課題を与える場合もあります。

プログラムによっては、保護者の方に同行するように隊長から事前に連絡いたします。送迎に同行するだけでなく、隊指導者の一人として参加された方もあります。隊長にお申し出ください。



スカウトのユニフォーム

「ちかい」をたてたスカウトは、スカウトのユニフォームの着用が認められます。各部門によってユニフォームは異なりますが、正しくスマートに着用してください。特にスカウトのユニフォームにつける記章は、正しくつけてください。分からない人は、それぞれの隊長にたずねてください。「ボーイスカウト日本連盟教育規定」に詳細について書かれています。その一部を紹介しておきます。

記念章・参加章などは、参加時から1年間着用することができます。これらは右ポケットにつけます。この期間に他の行事に参加して記念章・参加章などのワッペンが配付された時には、それをつけて参加します。2つ着用しないでください。その後どれをつけるかは、自由に選んでください。取り外したワッペンは、記念品として保管してもよいし、ジャンパーやバックにつけるのもよいです。海外での参加も同様です。

外国のスカウトや他の団のスカウトと交換した記章・記念章・参加章などは、ユニフォームに着用できません。記念品として保管してもよいし、ジャンパーやバックにつけるのは自由です。

全スカウト・指導者共通
世界スカウト記章・世界環境保護バッジ
連盟員章・県連章
所在地名章「MUSASHINO」、団号章「1」

ビーバースカウト

ビーバースカウトの正装



正帽、ネックチーフ、上着及び記章、標章以外は任意のものを着用できる

ビーバーバッジ



7.5×5.5cm 緑：青色 地：白地
茶色のビーバー（刺しゅう製）

ビーバー記章



3.5×7.5cm 緑：紺色 地：水色
茶色のビーバー（刺しゅう製）

ビックビーバー記章

（上記図柄に同じ）
ビーバー記章の緑を赤色にしたもの

木の葉章



葉の色は5色
（課目ごとに色別シール製）

ビーバーノートに貼り付ける

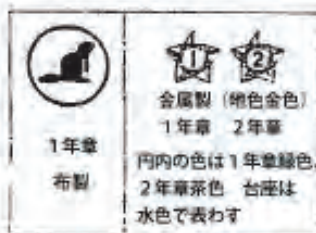
小枝章



茶色刺しゅう製
（アイロンプリント）

上着左ポケットのビーバー記章下につける

年功章



1年章
布製

金属製（紺色金色）
1年章 2年章
円内の色は1年章緑色、
2年章茶色 台座は
水色で表わす

上着左胸部に着用する
カブ隊への上進以降は
金属製の年功章を着用する



6×3cm 緑：紺色 地：水色
茶色のビーバー（刺しゅう製）

カブスカウト

枠は白色、くまの
図柄は濃紺色 耳、
目、鼻、口部は色ヌキ

帽章



進級章(ステップ章)

うさぎ



枠及びうさぎの
図柄は白色

しか



枠は白色、しかの
図柄は黄色

くま



枠及びくまの
図柄は紺色
耳、目、鼻、
口部は白ヌキ

カブスカウトの正装



世界スカウト章
連盟員章
組別章
チャレンジ章

帽章
世界環境保護バッジ
年功章(BVS,CSの順)
所在地名章
県名章
団号章
組長章

上進章
進級章(ステップ章)
完修章(クリア章)

りすバッジ



ロープのふちどり
中央にりす、ロープ
及びりすは金色

チャレンジ章



(図は読書家)

上進章



矢のふちどりは金色

組長章



黄色横線 2本

次長章



黄色横線 1本

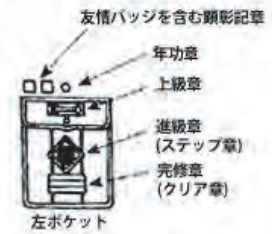
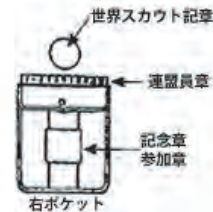


星章の円内に年数の文字を表わす。
円の色は 1年章緑色、2年章茶色、
3年章空色、台座：黄色
地色は 1~2年章金色、3年章銀色
左胸ポケットのふちに接してつける。

(長袖、半スボンも着用することができる)

連盟員章、記念章
参加章、世界スカウト
記章

カブスカウトの進級章と
上級章、年功章



ボーイスカウト

ボーイスカウトの正装



(BS, VS) 右袖



所在地名章
県名章
団号章
上級班長章
班長章
次長章
組長章
隊付章



ボーイスカウトバッジ



世界スカウト章
連盟員章
班別章
デンコーチ緩
技能章

帽章
世界環境保護バッジ
年功章(BVS,CS,BSの順)
所在地名章
県名章
団号章
上級班長・班長
次長・隊付章
進級章



初級スカウト



2級スカウト



1級スカウト



菊スカウト



特修章



(図は通信章)

技能章



(図は野営章)

上級班長章



緑色、横線本半に金色
スカウト章を付ける

班長章



緑色横線 2本

次長章



緑色横線 1本



1年章、2年章、3年章はカブスカウトと同じ。
4年章、星章の円内の数字は4で金色。
円の色は紺色、台座は緑色。
左胸ポケットの上ふちに接してつける。

隊付章



円形の枠取りは白色
中央に金色スカウト
章をつける

襟略章



スカウト章のうち、花弁と
鏡の部分(金色)

デンコーチ緩



右腕

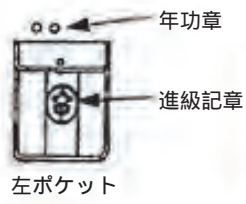
ベンチャースカウト



(長袖、ネクタイも着用することができる)

* ボーイスカウト、ベンチャースカウト共通

進級章と年功章



宗教章



正帽



副帽



* ビーバー ~ ローバー、指導者共通

世界スカウト章



連盟員章の中央上部に接して縫い付ける

連盟員章



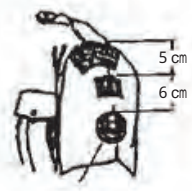
ローバースカウトおよび指導者

ローバースカウトの正装

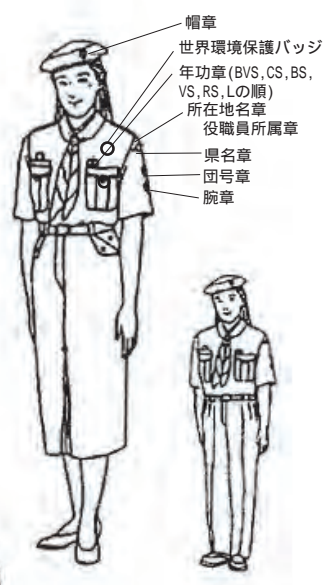


(長袖、ネクタイも着用することができる)

指導者腕章男女共通



女子指導者の正装



指導者の正装



ウッドバッジ男女共通



有功記章



正装の場合

指導者

女子指導者



副帽
スカウトハットの左横、帽帯に付ける



礼装の場合の有功記章



礼装・背広の場合の襟章



通常、襟略章を付けるが襟章を付けてもよい



上着： 紺色、センターベンツ
 3つボタン、袖ボタン4つ
 ズボン： グレー
 ワイシャツ： 白
 ネクタイ： 紺地に5色のストライプと
 ロープ模様を配し、左下
 端にスカウト章を入れる

上着： 紺色、センターベンツ
 3つボタン、袖ボタン4つ
 スカート： グレー
 シャツ： 白
 ネクタイ： 紺地に5色のストライプと
 ロープ模様を配し、左下
 端にスカウト章を入れる



1. 納付方法 郵便振込 振込口座番号 00160 - 2 - 75176
ボーイスカウト武蔵野 1・2 団
2. 納付期限 入隊後,リーダーの指示した日までに,お振込ください。
新入団者 入団月の末日迄にお振込ください。
上進者 1月末日迄に次年度分をお振込ください。
3. 振替の注意 (1)振込人名は保護者名でなく,スカウトの氏名でお願いいたします。
(2)通信欄に,所属隊名をご記入ください。
記入例:「ビーバー隊(武蔵野太郎)」(スカウトの氏名)
(3)兄弟一括で振込戴いても結構です。その旨を通信欄に,ご記入ください。
(4)振替受領書は,1年間保管してください。
4. 納付金額 *年度によって,支払経費に変更が生じますので,リーダーから納付金額のコピーをお渡しいたします。(月の入団式に配付する『セントメリースカウト名簿に記載』)
入団時[4月入団] + 34,800円 (2011年度の場合)
継続者[1年後から] 29,800円 (ビーバーの場合は28,600円)

(主な費用の内訳項目)

入団費(入団時のみ)	5,000円
ボーイスカウト日本連盟加入登録費・保険費	5,800円
団活動費 (月600円×12ヶ月)	7,200円
隊活動費 ビーバースカウト(月700円×12ヶ月)	8,400円
カブスカウト以上(月900円×12ヶ月)	10,800円
育成会費	2,000円
施設維持費	2,000円
バザー券 (スカウトバザー・みんなの広場)	2,000円

*年度途中からの入団の場合,団・隊活動費は該当月数分のみ納付いただきます。

詳細は,隊指導者,または財政担当団委員までお問い合わせください。

*年度途中で退団・転団される場合は,届出があった翌月以降の団・隊活動費はご返金致します。

5. 野外活動費 (1) キャンプ費 20,000 ~ 30,000円前後
その年度によって異なりますが,通常春季・夏季に定期キャンプが行われます。
- (2) - 時活動費 (交通費・入場料・他)
各所属隊にて,必要とする時に,その都度徴収させていただきます。

私たちの団では「スカウト活動」を対象として、「ボーイスカウト日本連盟そなえよつねに保険」に加入しています。スカウト活動のプログラム実施については、安全を第一に考慮し行っていますが、各家庭においても日常生活の中でも、さまざまな怪我に遭遇するのと同様に、スカウト活動の場合においても傷害や対物事故が発生する場合があります。その場合、速やかに処置をして病院等の対処、家庭および関係者への連絡を行うようにしています。団でかけている傷害保険・賠償責任保険の範囲は、下記のとおりです。

1. 加入している保険:「ボーイスカウト日本連盟そなえよつねに保険」

(1) 傷害保険

スカウト活動中の他、指導者の管理下に無い単独行動時(*1)や活動場所への往復時(*2)に、不慮の事故や災害により被った傷害、傷害に起因する後遺傷害および死亡、突発的な病気の発症による突然死等。

*1 連盟の指示のもとで行われた正規の活動に限る。

*2 事故時に制服を着用しているか、活動内容や参加者が事前に確定している場合。

(2) 賠償責任保険

スカウト活動中に、他人に怪我をさせたり、他人の物をこわしたことによって、法律上の損害賠償責任を負った場合。

(3) 保険金額

* 傷害保険

- ア. 死亡保障(事故の日から180日以内)……………2,000万円
- イ. 後遺障害保障(事故の日から180日以内)……………2,000万円～60万円
- ウ. 入院保障(事故の日から180日限度)……………1日につき4,000円
- エ. 手術保障(手術の種類に応じて)……………4万円・8万円・16万円
- オ. 通院保障(事故の日から180日以内で90日度)……………1日につき2,000円

* 賠償責任保険

- ア. 対物賠償保険額……………1事故500万円限度
- イ. 対人賠償保険額……………1事故5億円、1名1億円限度(*3)

(*3)『そなえよつねに保険有無に限わず、登録者は全て対象。』

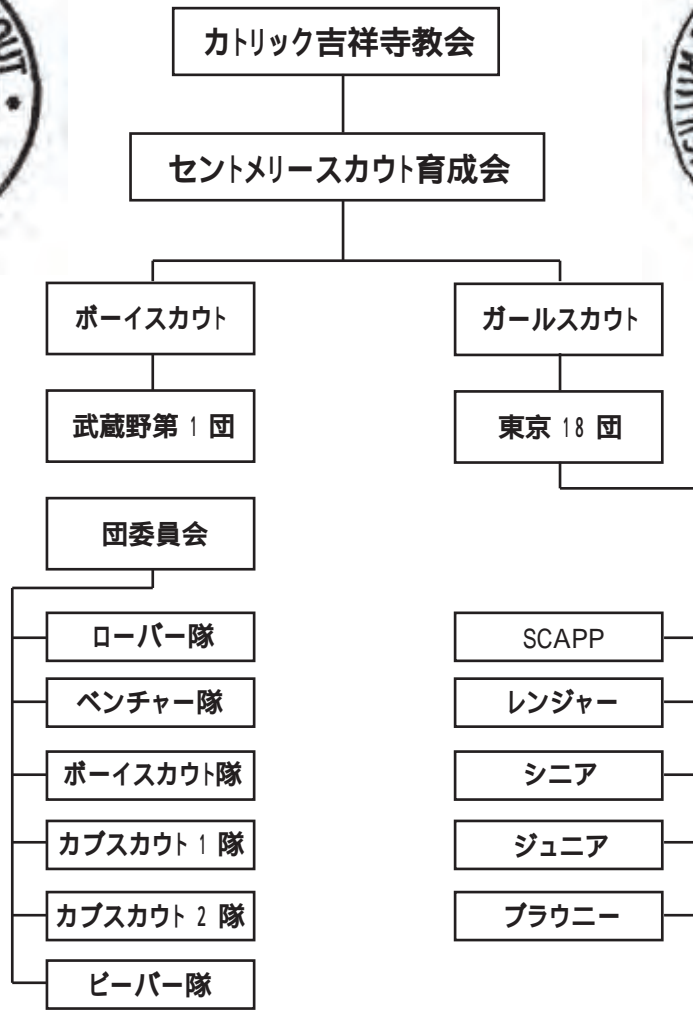
(4) 保険金が支払われない場合

普通傷害保険および賠償責任保険の規定に準ずる。

(例 故意によるもの・天災・細菌性食中毒等、往復時における賠償責任事故)

2. 保険対象者:ボーイスカウト日本連盟に加盟登録されている者

* なお、詳細については各隊の指導者、または保険担当団委員まで、お問い合わせ下さい。



- ・ビーバー隊は必要に応じて、その都度グループを作る。現在1隊と2隊が合同して活動している。
- ・ボーイスカウト隊の中に班組織がある。
- ・ベンチャー隊は、それぞれのプロジェクト毎に活動チームを編成する。

ビーバースカウト	(略称:ビーバー)	小学校1年～2年生
カブスカウト	(略称:カブ)	小学校3年～5年生
ボーイスカウト	(略称:スカウト)	小学校6年生～中学生
ベンチャースカウト	(略称:ベンチャー)	高校生年齢
ローバースカウト	(略称:ローバー)	大学生年齢

* 各スカウト部門などの学齢の月は、3～6か月の幅がある。当団では上記のようにしている。

隊・組指導者 (略称リーダー / 役職名の隊長・副長・デンコーチ)

* 隊指導者の年齢は満20歳以上。該当する各部門の研修を修了した者が、正規の指導者になれる。

団委員 (役職名の団委員長、副団委員長、団委員)

スカウトホームおよびカトリック吉祥寺教会敷地内で、隊ミーティングを行っているときに地震が発生した場合、各隊の指導している隊長の下で対応します。

地震がおさまるまで、基本としては、スカウトホーム前の広場またはカトリック吉祥寺教会会館に避難させます。その際は、スカウトホームおよび教会会館事務室前に、避難している場所・教室等を掲示します。状況によっては、スカウトたちを帰宅させずに、スカウトの保護者の方が迎えに来るまで待たしておきます。仮宿泊をさせねばならない時には、教会会館にいます。武蔵野市として、スカウトホームに一番近い地震災害時の避難場所は、井の頭公園になっておりますが、状況により多くの人たちが避難して参りますので、混乱を避たけるために、前記のように致しております。

井の頭公園に避難させなければならない時には、教会会館に案内役のリーダーを残し、また避難先を掲示するようにします。

教会近隣にお住になられていらっしゃる保護者または代理の方々のご協力をいただければ幸いです。その際、一般の方々との区別が付きやすいように、ネッカチーフをつけて、リーダーの下でお手伝いをお願い致します。



13.

ボーイスカウトへの入団を希望する方へ

- (1) 2ページの該当する学年の各部門の隊集会に見学に来てください。
- (2) 随時募集をしています。(ただし、7月1日～8月31日の期間は除きます)
ハガキかメールで連絡してください。

こどもさんの氏名 学校(幼稚園)名、学年 連絡先電話番号 保護者氏名
自宅の郵便番号と住所

- (3) 各隊の活動日時

各隊とも年間のプログラムを基に、月間のプログラム(前月末に活動日時・場所を決定)で活動しています。
天候等で変更になることがあります。

また、日曜日・祝祭日や土曜休日に活動するときには、お昼を挟むで午後も活動することもあります。
イーティングを行ったり、お弁当持参で出かける時もあります。

- (4) 各隊の活動を見学したいときには、スカウトホームや教会の庭、また井の頭公園ならびに その周辺での活動は、何時でも見学はできます。

ハイキングやピクニック、キャンプなどは、特別の準備や子どもさんに対しての事前指導が必要なので、
随時見学に応じる事は、出来ませんので、ご了承ください。

郵便はがきの場合： 〒 180-0005
東京都武蔵野市御殿山 1-7-8 カトリック吉祥寺教会
ボーイスカウト武蔵野第1団 スカウト募集担当係

E-メールの場合： sato5tokyo@star.bbexcite.jp 団委員長 佐藤秀勝
(現在ホームページからの連絡が出来るよう調整中ですので、しばらくはこのアドレスへ
連絡ください)

ホームページ： セントメリースカウト
<http://www.stmaryscout.com/>
カトリック吉祥寺教会
<http://www.svdtokyo.jp/>
ボーイスカウト日本連盟
<http://www.scout.or.jp/>



最後のメッセージ

しよくん
スカウト諸君

「ピーターパン」の劇を見たことのある人なら、海賊の首領が死ぬ時には、最後の演説をするひまはないにちがいないと思って、あらかじめその演説をするのを、覚えているであろう。私もそれと同じで、今すぐ死ぬのではないが、その日は近いと思うので、君たちに別れの言葉をおくりたい。

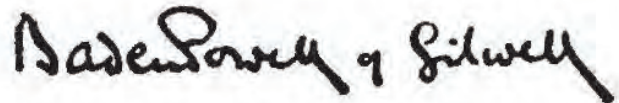
これは、君たちへの私の最後の言葉になるのだから、よくかみしめて、読んでくれたまえ。

私は、非常に幸せな生涯を送った。それだから、君たち一人ひとりにも、同じように幸福な人生を、歩んでもらいたいと願っている。

神は、私たちを、幸福に暮らし楽しむようにと、このすばらしい世界に送ってくださったのだと、私は信じている。金持ちになっても、社会的に成功しても、わがままができて、それによって幸福にはなれない。幸福への第一歩は、少年のうちに、健康で強い体をつくっておくことである。そうしておけば、大人になった時、世の中の役に立つ人になって、人生を楽しむことができる。

自然研究をすると、神が君たちのために、この世界を、美しいものやすばらしいものに満ち満ちた、楽しいところにおつくりになったことが、よくわかる。現在与えられているものに満足し、それをできるだけ生かしたまえ。ものごとを悲観的に見ないで、なにごとにも希望を持ってあたりたまえ。

しかし、幸福を得るほんとうの道は、ほかの人に幸福を分け与えることにある。この世の中を、君が受け継いだ時より、少しでもよくするように努力し、あとの人に残すことができたなら、死ぬ時がきても、とにかく自分は一生を無駄に過ぎず、最善をつくしたのだという満足感をもって、幸福に死ぬことができる。幸福に生き幸福に死ぬために、この考えにしたがって、「そなえをつねに」を忘れず、大人になっても、いつもスカウトのちかいとおきてを、堅く守りたまえ。神よ、それをしようとする君たちを、お守りください。



君たちの友 ベーデン・パウエル・オブギルウェル

(これは1941年1月8日にベーデン パウエルがなくなった後、彼の書きものの中から発見された)



International catholic conference of Scouting



日本カトリック
スカウト協議会



吉祥寺教会
セントメリー スカウト



吉祥寺教会
セントメリー
ローバース



ICCS Cloth Patch



キリスト教章



菊章 (ボーイスカウト)

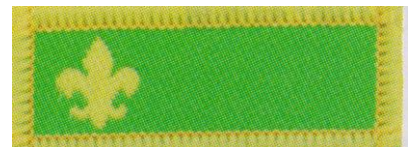


富士章 (ベンチャースカウト)



世界友情章

カトリック吉祥寺教会
セントメリースカウト
ボーイスカウト武蔵野第1団



信仰奨励章



炊事章



野営章



野営管理章



救急章